

構造関係共通図 (配筋標準図)

1.1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表1.1を標準とする。

折曲げ 角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)		
		S0295A S0295B, S0345	S0390	
		D16 以下	D19 ~D38	D19 ~D38
180°		2d以上	4d以上	5d以上
135°				
90°				
135° 及び 90° (幅止め筋)				

(注) 1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

2.1 異形鉄筋の束端部

次の部分に使用する異形鉄筋の束端部にはフックを付ける。
(1) 柱及び梁 (基礎梁を除く) の出隅部

図2.1 束端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋 (●印)

(2) 煙突の鉄筋 (壁の一部となる場合を含む)
(3) 杭基礎のベース筋
(4) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3.1 継手及び定着

(a) 鉄筋の重ね継手

(1) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
(2) 鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	直線定着の長さ		フックあり定着の長さ	
		Li (フックなし)	Ld (フックあり)	Li	Ld
S0295A S0295B	18	45d	35d	35d	30d
	21	40d	30d	30d	25d
	24, 27	35d	30d	25d	20d
S0345	18	50d	35d	35d	30d
	21	45d	30d	30d	25d
	24, 27	40d	30d	25d	20d
S0390	18	50d	35d	35d	30d
	21	45d	30d	30d	25d
	24, 27	40d	30d	25d	20d

(注) 1. Li, Ld: フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合の Li, Ld は、図3.1に示すようにフック部分を含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

(3) 鉄筋の重ね継手の長さとは、フックありなしにかかわらず40d以上 (軽量骨材を使用する場合は50d以上) と表3.1の重ね継手の長さのうち大きい値とする。
(4) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。

鉄筋の種類	フックありの場合	フックなしの場合	隣り合う継手の位置
手組柱筋			a=0.5 Li, a≧0.5 Li
手組梁筋			a=0.5 Li, a≧0.5 Li
手組基礎筋	—	—	圧接継手・溶接継手 a≧400mm
手組気管筋	—	—	カプラー a≧400mm, かつ, a≧(b+40)mm

(b) 鉄筋の定着

(1) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。
(2) 柱に取付ける梁の引張り鉄筋、土下部分への柱梁の主筋の定着長さは、40d とする。

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	直線定着の長さ				フックあり定着の長さ			
		Li	Li	小梁	スラブ	Li	Ld	小梁	スラブ
S0295A S0295B	18	45d	40d	—	—	35d	30d	—	—
	21	40d	35d	—	—	30d	25d	—	—
	24, 27	35d	30d	—	—	25d	20d	—	—
S0345	18	50d	40d	—	—	35d	30d	—	—
	21	45d	35d	20d	—	30d	25d	10d	—
	24, 27	40d	35d	—	—	25d	20d	—	—
S0390	18	50d	40d	—	—	35d	30d	—	—
	21	45d	35d	—	—	30d	25d	—	—
	24, 27	40d	35d	—	—	25d	20d	—	—

(注) 1. Li, Ld: 2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2. Li, Ld: 新築現場のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3. Li: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. Li: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

(2) 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(i)。(ii)及び(iii)をすべて満足するものとする。
(i) 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
(ii) 余長は8d以上
(iii) 仕口面から鉄筋先端までの投影定着長さは表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいD/4倍以上とする。

図3.3 折曲げ定着の方法

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	Li	Ld
S0295A S0295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
S0345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
S0390	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d

(注) 1. Li: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。)
2. Ld: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

(3) 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
なお、及びは表3.4の(注)による。

図3.4 溶接金網の継手及び定着

(4) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による。

図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4.1 最小かぶり厚さ

(a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
ただし、柱及び梁の主筋にD20以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

構造部分の種類	構造部分の種類		最小かぶり厚さ	
	スラブ	柱、梁、耐力壁		
土に接しない部分	耐力壁以外の壁	仕上げあり	20	
		仕上げなし	30	
	柱、梁、耐力壁	屋内	仕上げあり	30
		屋外	仕上げなし	30
			仕上げあり	30
			仕上げなし	40
階壁、耐圧スラブ			40	
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁		* 40	
	基礎、階壁、耐圧スラブ		* 60	
	埋戻しを受ける部分		60	

(注) 1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上げ塗料、塗装等)のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び階壁で、直挿土に接する部分のかぶり厚さには、鉄コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
(c) 鉄筋積立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
(d) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。

項目	値
(1) 筋骨材の最大寸法の1.25倍	
(2) 25mm	
(3) 隣り合う鉄筋の平均径 (呼び名の数値) 1.5倍	

図4.1 鉄筋相互のあき (Dは、鉄筋の最大径)

(e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは(d)による。
(f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは(c)による。

特記事項	工事名称 令和5・6年度 志摩消防署機部分署等高台移転工事 (建築工事)	図面名称 建築構造標準図 1	三重県志摩市			
	設計者 日本工営都市空間株式会社	日本工営都市空間株式会社 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (しー4) 第3767号 管理建築士 岸見 淳平 一級建築士番号 第306011号 設計者 高田 哲人 一級建築士番号 第381431号	株式会社夏目構造設計事務所 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (しー1) 第6861号 設計者 夏目 敬介 一級建築士番号 第340218号 構造設計一級建築士番号 第9443号	縮尺 N.S(A1) N.S(A3)	令和5年 3月	図面番号 S-02

5.1 基礎梁

(a) 一般事項

(1) 梁筋は、連続柱で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は図5.1のように反対側の梁に定着する。片端部や隅部等では折り返して定着する。

(2) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b)(4)による。

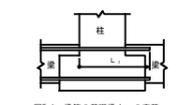


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2(1)による。

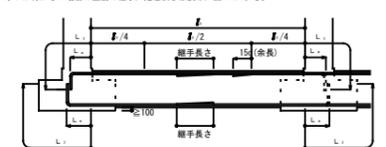


図5.2(1) 主筋の継手、定着及び余長 (その1)

(注) 1. 図示のない事項は、7.11による。
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 4. 梁主筋のみ込み長さ (柱せい \times 3/4倍以上)

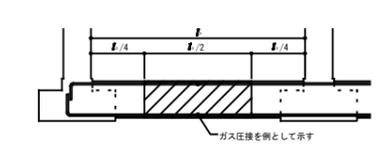


図5.2(2) 主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(注) 1. 図示のない事項は、7.11による。
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 4. 梁主筋のみ込み長さ (柱せい \times 3/4倍以上)

ガス圧接を例として示す
 継手の好ましい位置

図5.3 主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。ただし、継手スラブが付く場合は、(d)による。

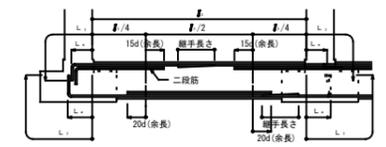


図5.3 主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(注) 1. 図示のない事項は、7.11による。
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 4. 梁主筋のみ込み長さ (柱せい \times 3/4倍以上)

ガス圧接を例として示す
 継手の好ましい位置

図5.4 主筋の継手、定着及び余長 (その3)

(注) 1. 図示のない事項は、7.11による。
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 4. 梁主筋のみ込み長さ (柱せい \times 3/4倍以上)

ガス圧接を例として示す
 継手の好ましい位置

図5.4 主筋の継手、定着及び余長 (その3)

5.2 基礎梁のあばら筋

(a) 一般事項

(1) あばら筋の種及び間隔は、特記による。

(2) あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(b)による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

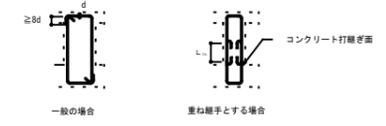


図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

(b) 覆筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は特記による。

(c) あばら筋の割付けは、7.2(e)による。

6.1 柱

(a) 一般事項

(1) 継手の中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3b_o/4$ (b_o は柱の内法高さ)以下とする。

(2) 継手、定着及び余長は図6.1による。ただし、柱筋定着長さ \neq 仕様できない場合は、特記による。

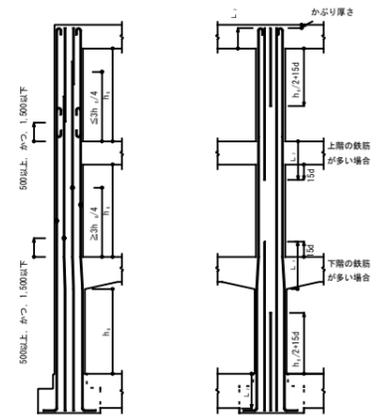


図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

(注) 1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上層の柱頭にある場合には、フックを付ける。
 2. 隣り合う継手の位置は、表3.2「隣り合う継手の位置」による。
 3. 継手及び定着は、すべての階に適用できる。

(b) 柱打ち増し部

(a) 打ち増し部分に、壁、スラブ筋等が取り付く場合は、壁、梁、スラブ筋等の定着長さには、打ち増し部分を含まない。

(b) 土に接する柱周囲の打ち増しは図6.2による。

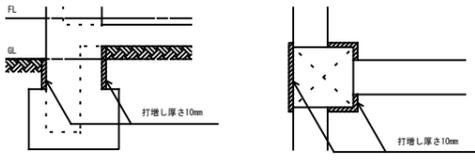


図6.2 柱打ち増し部

6.2 帯筋

(a) 帯筋の種及び間隔は、特記による。

(b) 帯筋組立の形は図6.3により、適用は特記による。

(1) H形の135°曲げのフックが異なる場合は、W-1形とする。

(2) 溶接する場合の溶接長さ \neq 仕様、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。

(3) S P形において、柱頭及び注脚の端部は、1.5巻以上の巻ききを行う。

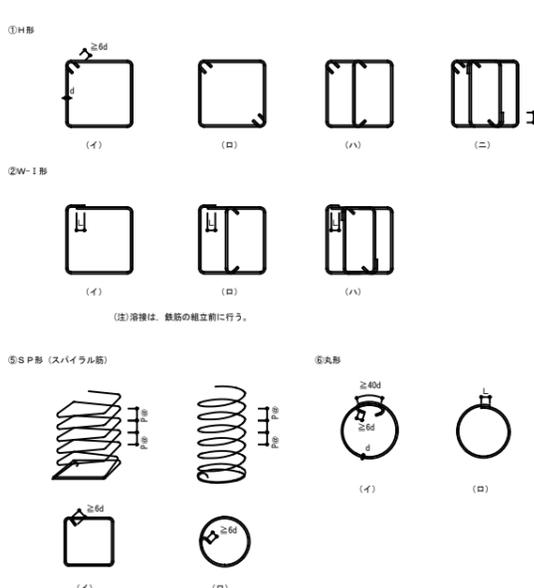


図6.3 帯筋組立の形

(注) 溶接は、鉄筋の組立前に行う。

(c) フック及び継手の位置は交互とする。

(d) 帯筋の割付けは、図6.4とし、それ以外の場合は特記による。

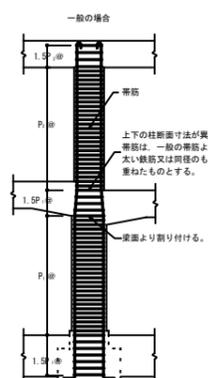


図6.4 帯筋の割付け

(注) 1. 図示のない事項については、一般の場合と同じ。
 2. 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P @または1.5P @とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
 なお、P @、P @は、特記された帯筋の間隔を示す。

特記事項	工事名称	令和5・6年度 志摩消防署機部分署等高台移転工事(建築工事)		図面名称	建築構造標準図2		三重県志摩市			
	設計者	日本工営都市空間株式会社		日本工営都市空間株式会社 一級建築士事務所 愛知県知事登録(しー4)第3767号 管理建築士 岸見 淳平 一級建築士番号 第306011号 設計者 富田 哲人 一級建築士番号 第381431号	株式会社夏目構造設計事務所 一級建築士事務所 愛知県知事登録(しー1)第6861号 設計者 夏目 敬介 一級建築士番号 第340218号 構造設計一級建築士番号 第9443号	縮尺	N.S(A1) N.S(A3)	令和5年 3月	図面番号	S-03

8.2 壁の補強

(a) 壁開口部の補強

(1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は特記による。
なお、耐震壁の補強筋は、特記による。

表8.3 壁開口部補強筋 (A形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12、W15	1-D13	1-D13
W18、W20	2-D13	2-D13

表8.4 壁開口部補強筋 (B形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12、W15	2-D13	1-D13
W18、W20	4-D13	2-D13

(2) 壁開口部補強筋の定着長さは図9.3による。

図9.3 壁開口部補強筋の定着長さ

(3) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

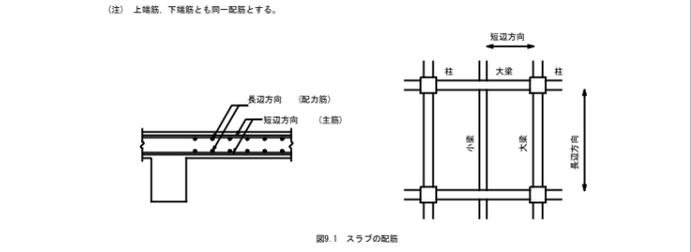
9.1 スラブ

- (1) スラブ及び土間コンクリートの上がり下がりには、FLを基準とした寸法値とする。
(2) 土間スラブ下の砂利地層厚さ及び捨てコンクリート厚は、特記による。
(3) 土間コンクリート補強筋 (D₀) の配筋及びコンクリート厚さは、特記による。
(4) スラブリの配筋 (S形配筋) は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、特記による。

表9.1 S形配筋

配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域	配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S 1	D13-100φ	D13-100φ	S 8	D10、D13-150φ	D10-150φ
S 2	同上	D13-150φ	S 9	同上	D10-200φ
S 3	同上	D10、D13-150φ	S10	D10、D13-200φ	D10、D13-200φ
S 4	D13-150φ	D13-150φ	S11	同上	D10-200φ
S 5	同上	D10、D13-150φ	S12	同上	D10-250φ
S 6	同上	D13-150φ	S13	D10-200φ	D10-200φ
S 7	D10、D13-150φ	D10、D13-150φ	S14	同上	D10-250φ

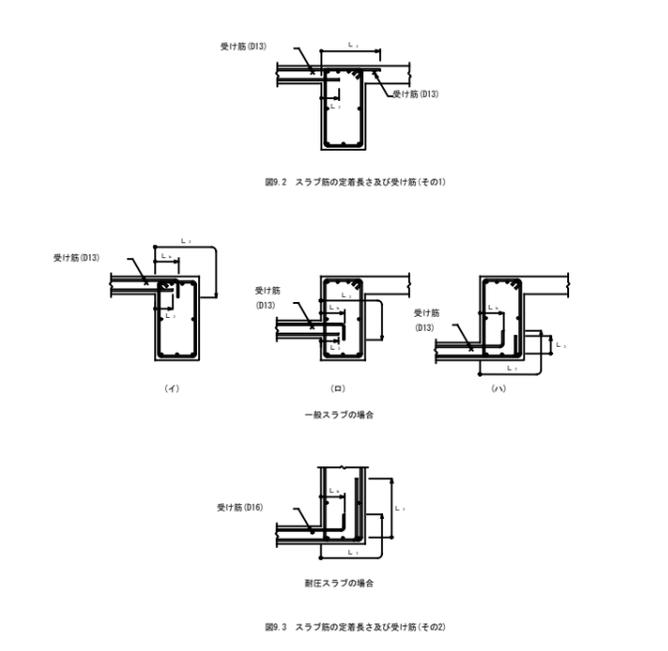
(注) 上補筋、下補筋とも同一配筋とする。



- (5) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
(6) 鉄筋の重ね継手長さは、Lとする。

特記事項

- (7) 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。
ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により室内に定着する。

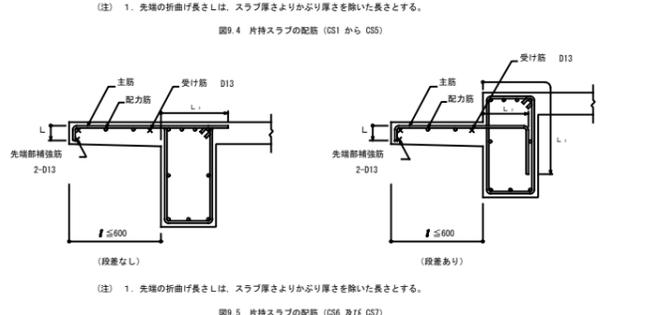
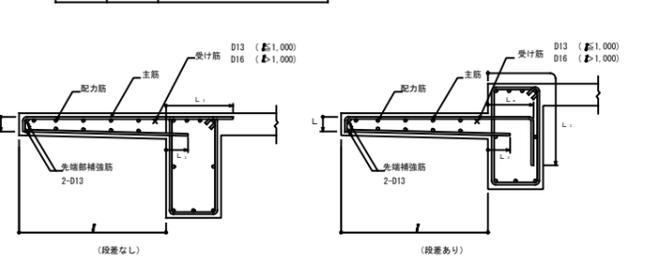


9.2 片持スラブ

- 片持スラブリの配筋は、次による。
(1) 片持スラブリの配筋 (CS形配筋) は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、特記による。

表9.2 CS形配筋

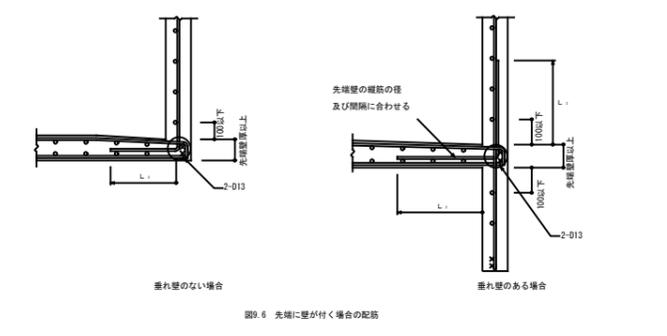
配筋種別	主筋	配筋種別	主筋
CS1	上 D13-100φ	CS5	上 D10-200φ
	下 D13-200φ		下 D10-400φ
CS2	上 D13-150φ	CS6	上 D10、D13-200φ
	下 D13-300φ		下 —
CS3	上 D10、D13-150φ	CS7	上 D10-200φ
	下 D10、D13-300φ		下 —
CS4	上 D10、D13-200φ		下 —
	下 D10-200φ		



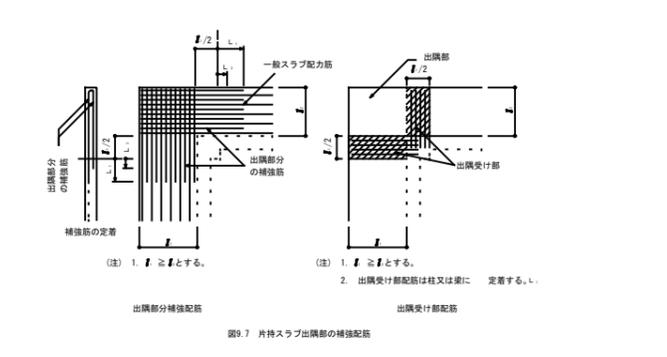
工事名称 令和5・6年度 志摩消防署機部分署等高台移転工事 (建築工事)

設計者 日本工営都市空間株式会社

- (2) 先端に壁が付く場合の配筋は図9.6による。

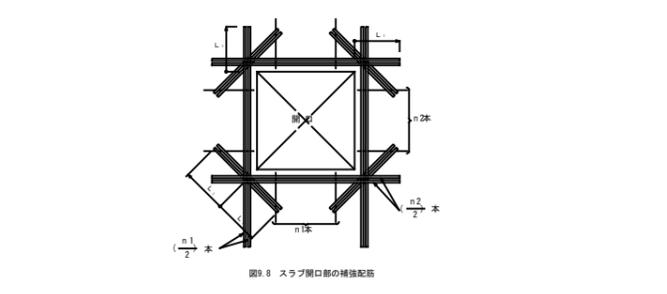


- (3) 出隅部
- (1) 補強の配筋は特記により、配筋方法は、図9.7による。
(2) 出隅受け部分 (図9.9の斜線部分) の補強筋は特記による。



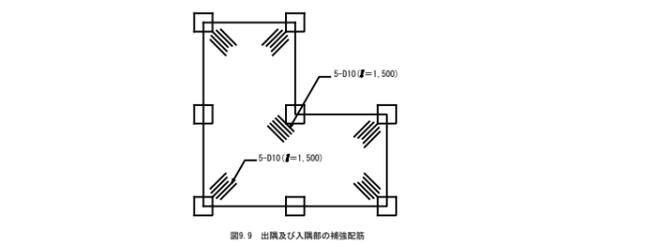
9.3 スラブリ等の補強

- (a) スラブリ開口部の補強
スラブリ開口部の補強は、特記による。
(1) スラブリ開口部の最大径が700mm以下の場合には、図9.8により、開口部によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (φ=2.5) シングルを上下筋の内側に配筋する。

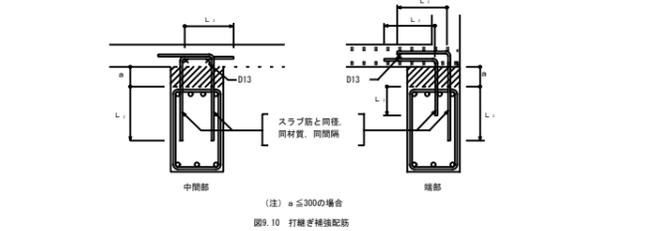


- (2) スラブリの開口部の最大径が開口部の配筋間隔以下で、鉄筋を横やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

- (b) 屋根スラブリの補強
屋根スラブリの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上補筋の下側に配置する。



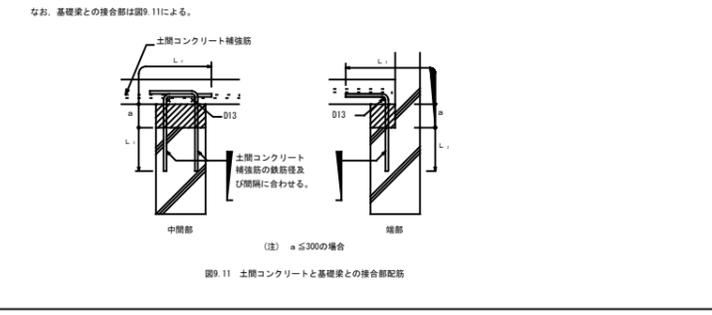
- (c) 土間スラブリの打継ぎ補強
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、図9.10による。
ただし、土間スラブとは、土に接するスラブリの配筋によるものをいう。



図面名称 建築構造標準図 4

設計者 日本工営都市空間株式会社 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (シ-4) 第3767号 株式会社夏目構造設計事務所 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (シ-1) 第6861号
管理建築士 岸見 淳平 一級建築士番号 第306011号 設計者 夏目 敬介 一級建築士番号 第340218号
設計者 高田 哲人 一級建築士番号 第381431号 構造設計一級建築士番号 第9443号

- (d) 土間コンクリート補強
土間コンクリートの補強筋は、特記による。
なお、基礎梁との接合部は図9.11による。

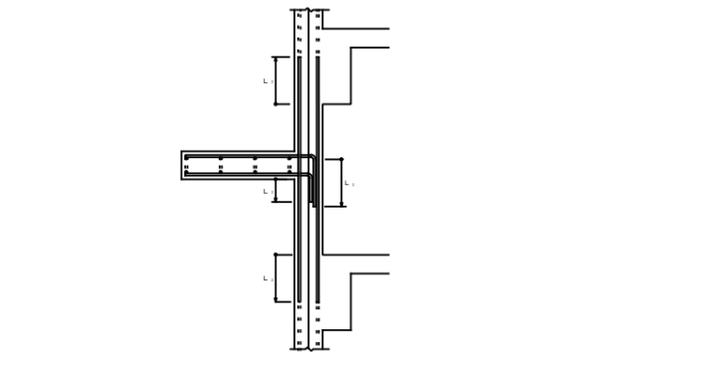


10.1 片持スラブリ階段

- 片持スラブリ階段の基準配筋は、表10.1及び図10.11により、寸法及び配筋種別は、特記による。

表10.1 片持スラブリ階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		



- (注) 1. 片持スラブリ階段を受ける壁配筋は、8.1(e)による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから廻り下ろす。
3. スラブリ配力筋の継手及び定着の長さは、表3.3「鉄筋の定着長さ」のLとする。

三重県志摩市

縮尺 N.S(A1)
N.S(A3)

令和5年 3月

図面番号 S-05

10.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の基準配筋は、表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、特記による。

配筋種別	上縦筋、下縦筋とも(全域)
KB1	D13-200φ
KB2	D13-150φ
KB3	D13-100φ
KB4	D13、D16-150φ
KB5	D16-150φ
KB6	D16-125φ
KB7	D16-100φ

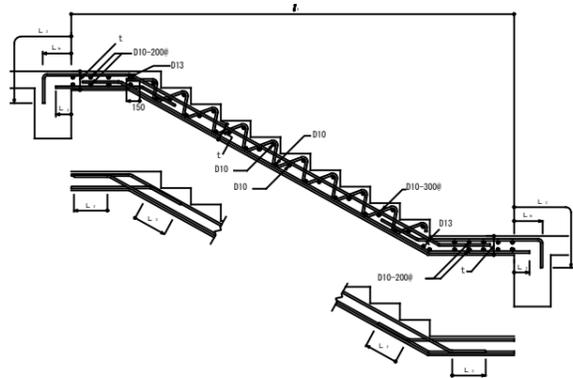
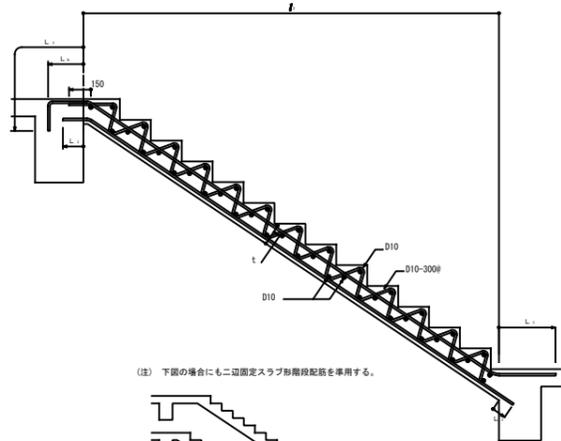


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)



(注) 下段の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

11.1 梁貫通孔

- (a) 梁貫通孔は、次による。
- 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
 - 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
 - 孔の上下方向の位置は梁せいで中心付近とし、梁中央部下縁は梁下縁よりD/3 (Dは梁せい)の範囲には設けてはならない。
 - 孔は、柱面から、原則として、150以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
 - 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
 - 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
 - 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
 - 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
 - 溶接金網の余長は1倍子以上とし、突出しは10mm以上とする。
 - 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
 - 溶接金網の筋付け始点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

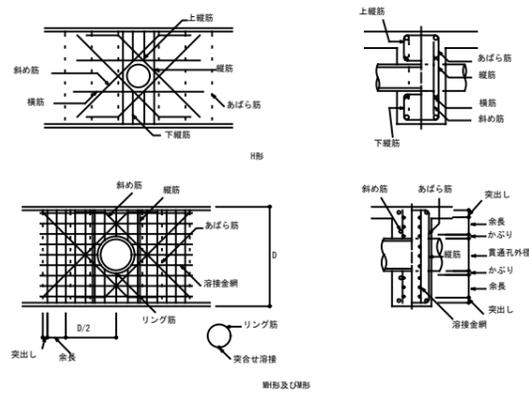


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

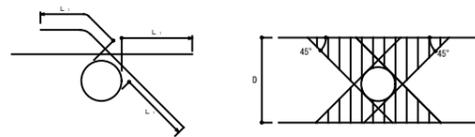


図11.2 補強筋の定着長さ



図11.3 他の開孔を設けない範囲

(b) 梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.3により、配筋種別は特記による。

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	なし	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	なし	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

(注) . . . は、一般部分のあばら筋を示す。

配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13	なし	
M3	4-2-D13	2-6φ-100φ	
M4	6-2-D13	2-6φ-100φ	

(注) . . . は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.3 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
N1	なし	なし	なし	
N2	2-2-D13	なし	なし	
N3	2-2-D13	なし	なし	
N4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100φ	
N5	4-2-D16	2-2-D13	2-6φ-100φ	
N6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100φ	
N7	4-2-D19	4-2-D13	2-6φ-100φ	

(注) . . . は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2 コンクリートブロック構壁との取合い

- (a) 控壁は、次による。
- 控壁の配筋図、特記による。
 - 配筋は、図11.4による。

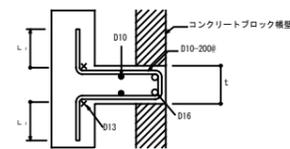


図11.4 控壁の配筋(水平、垂直とも)

(b) 構壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

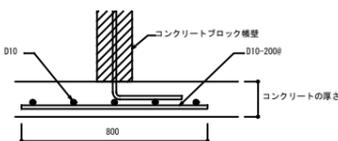


図11.5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3 バラベットの配筋

バラベットの配筋は図11.6による。コンクリート厚さ、縦筋は特記による。

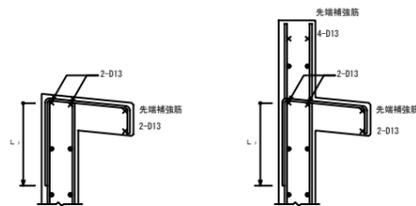


図11.6 バラベットの配筋

特記事項

工事名称 令和5・6年度 志摩消防署機部分署等高台移転工事(建築工事)

図面名称 建築構造標準図5

三重県志摩市

設計者 日本工営都市空間株式会社

日本工営都市空間株式会社 一級建築士事務所 愛知県知事登録(イ-4)第3767号 株式会社夏目構造設計事務所 一級建築士事務所 愛知県知事登録(イ-1)第6861号
管理建築士 岸見 淳平 一級建築士番号 第306011号 設計者 夏目 敬介 一級建築士番号 第340218号
設計者 富田 哲人 一級建築士番号 第381431号 構造設計一級建築士番号 第9443号

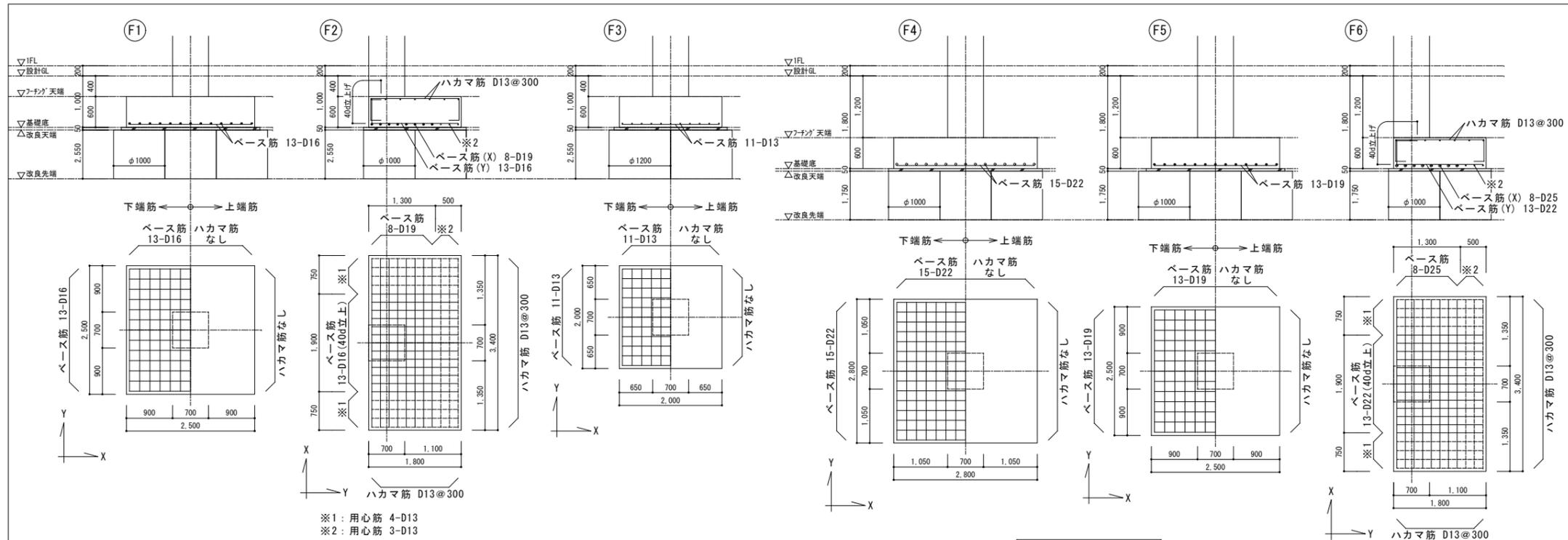
縮尺 N.S(A1)
N.S(A3)

縮尺

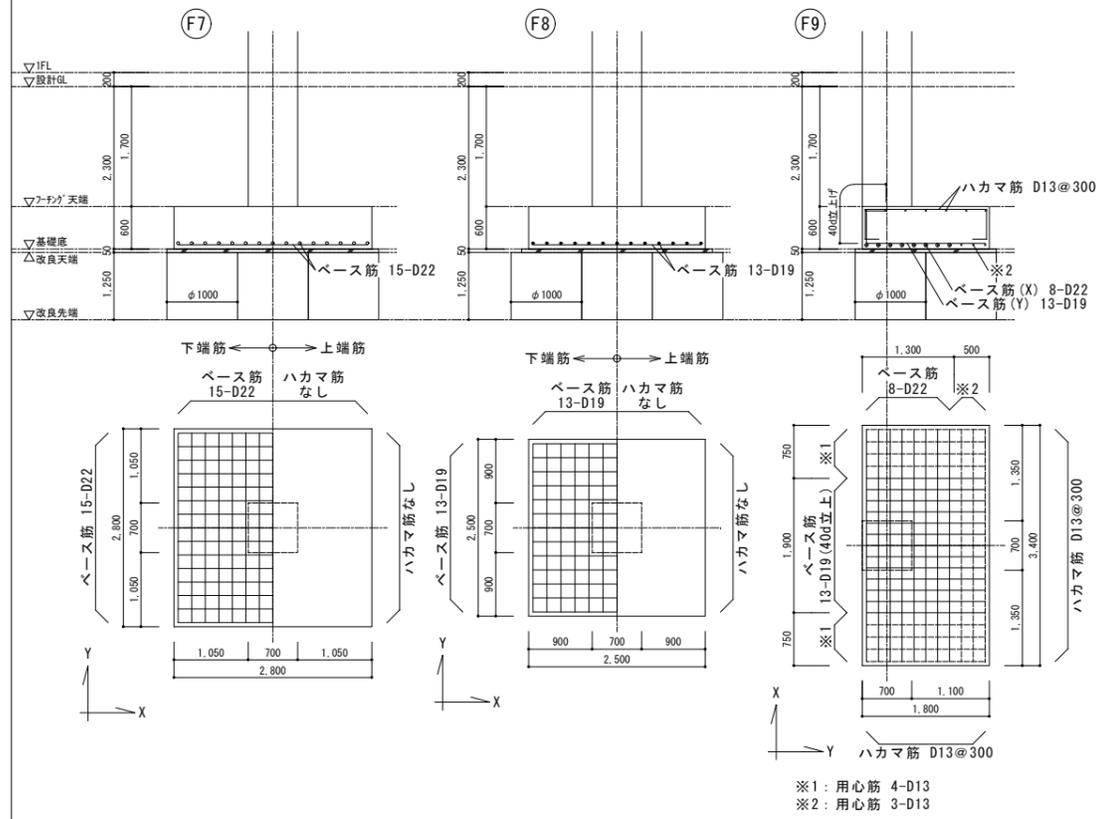
令和5年 3月

図面番号

S-06



基礎詳細図 S=1/50



ウルトラコラム工法 特記仕様書 (同等の認定工法への変更可)

5.1 工法概要
 本工法は、ウルトラコラム工法による、地盤改良地帯であり、スラリー状のセメント系固着材を地中に注入しながら、ウルトラコラム専用共回り防止翼(十字型)を装着した攪拌装置を用いて、原地盤を機械的に混合攪拌し、固着材の化学反応により所要の強度を持つ改良体を築造する工法である。

5.2 特記事項
 本工法は、攪拌能力・攪拌径・品質(変動係数)に対して「建築技術性能保証委員会」にて証明された技術審査取得工法とする。また、事前にその証明書を管理者に提出し、認証を得ることとする。

5.3 一般事項
 <1>施工業者
 本工法の施工業者は、地盤改良工法の施工技術及び計測装置の取扱いに精通したもので、ウルトラコラム工法協会に所属する指定施工会社とする。

<2>設計変更
 コラム径、掘削深度(改良長+空堀長)、本数配置等は、設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。

5.4 コラム仕様
 <1>設計基準強度
 コラムの設計基準強度は $F_c = 1200 \text{ kN/m}^2$ とする。

<2>固着材
 固着材の配合は、原則として、改良部分の検査対象土を採取し、3種類以上の添加量にて室内配合試験を行い試験結果と配合強度を基に添加量を決定する。

<3>配合強度
 配合強度 X_f は、設計基準強度 F_c と変動係数・採取ヶ数により割増係数 αt を用いて、次式による。 $X_f = \alpha t \times F_c$
 割増係数 αt は、合格率80%とした下表による。

採取ヶ数 N	1	2	3	4~6	7~8	9~
25%	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594
30%	2.597	2.240	2.095	1.961	1.869	1.792
35%	3.160	2.649	2.448	2.265	2.140	2.037

<4>室内配合強度
 室内配合強度 X_I は、配合強度 X_f を現場/室内強度比 $\alpha f t$ で除して、次式による。 $X_I = X_f / \alpha f t$ ($\alpha f t = 0.7$)

<5>固着材液の配合

固着材添加量	300	kg/m ³
水/固着材比	70	%

5.5 施工管理
 ※施工手順書に沿って次の仕様で行う。
 ① 固着材スラリーの吐出量
 ② ロッドの鉛直性
 ③ オーガー回転数
 ④ 掘削深度・速度及び引上げ深度・速度
 ⑤ トルク値またはオーガー電流値

5.6 品質管理
 <1>調査ヶ所 (検査対象層に対して)
 ① 検査対象層は、概ねコラム300本を1単位とし、層厚50cm以上の土層毎に検査対象層を決める。
 ② 検査対象層は (粘性土) であり設計対象層を (粘性土) とする。
 ③ 検査手法は強度のパラッキを想定する場合は検査手法Aによる。
 ④ 調査ヶ所数 (検査対象層に対して)

検査手法A	頭部コア試験	2箇所
	全長コア試験	2箇所

※頭部コアは、1箇所当たり3個のコア採取を標準とする。
 ※全長コアは、1m当たり3個のコアを採取を標準とする。

<2>採取位置
 頭部コア
 全長コア

<3>ボーリングコア採取率 (連続性の確認)
 コア採取率は、全長に対して砂質土系で95%以上、粘性土系で90%以上とし、1m当りのコア採取率は、砂質土系で、90%以上、粘性土系で85%以上とする。(塩ビ管などを代用する場合もある)

<4>合否の判定
 ① 設計対象層についての採取ヶ所をNとする。1箇所あたり3個の供試体を採取し、強度をその箇所の強度とする。
 ② 一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。
 ③ 検査手法Aによる品質検査
 合否の判定は設計対象層におけるNヶ所(採取ヶ所数)の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定とする。

$$X_N \geq X_L = F_c \cdot \sigma_d + K_a [F_c \cdot V_d / (1 - 1.3V_d)]$$
 XN: Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値
 XL: 合格判定値
 Fc: 設計基準強度
 Ka: 合格判定係数
 σd: 標準偏差
 Vd: 変動係数、品質確認書より想定する。
 (合格判定係数)

検査対象層 N	1	2	3	4~6	7~8	9~
合格判定係数 K _a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

<5>未固化改良体の比抵抗測定
 施工直後の改良体の攪拌混合状況を把握するために、比抵抗の深度方向の分布を測定する。
 検査数量は、1検査対象層毎に1箇所以上かつ、50コラム毎に1箇所以上とする。

比抵抗測定 3箇所

5.7 問い合わせ先 愛知ベース工業株式会社 (連絡先: 052-485-8381)

特記事項	工事名称 令和5・6年度 志摩消防署磯部分署等台高移転工事(建築工事)	図面名称 基礎詳細図	三重県志摩市
設計者 日本工営都市空間株式会社	日本工営都市空間株式会社 一級建築士事務所 愛知県知事登録(いー4)第3767号 株式会社夏目構造設計事務所 一級建築士事務所 愛知県知事登録(いー1)第6861号 管理建築士 岸見 淳平 一級建築士番号 第306011号 設計者 夏目 敬介 一級建築士番号 第340218号 設計者 富田 哲人 一級建築士番号 第381431号 構造設計一級建築士番号 第9443号	縮尺 1:50(A1) 1:100(A3)	令和5年 3月 図面番号 S-08

基礎梁 リスト										Fc = 30 N/mm ² 、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)			
層	符号	FG1、FG3、FG9、FG10、FG13、FG18	FG2、FG4、FG5、FG7、FG8、FG11、FG14、FG15、FG17、FG19	FG6、FG21	FG12	FG16、FG24	FG20	FG22	FG23	梁の増し打ち補強要領			
F	位置	全部		全部	全部	全部	全部	全部	全部	共通			
	1FL	増し打ち		増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち D16※2			
	GL	増し打ち		増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	STPと同径、同材質、同間隔			
	断面	※FG1断面		※FG2断面	※FG6断面	※FG16断面	※FG16断面	※FG16断面	※FG16断面	※FG16断面	※1: a < 70の場合、補強筋不要 ※2: b ≤ 350の場合、2-D16 b > 350の場合、3-D16		
	上端筋	5-D25		5-D25	6-D25	9-D25	5-D25	6-D25	5-D25	7-D25			
下端筋	5-D25		5-D25	6-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	7-D25				
S T P	D13-□-@200		D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200				
腹筋	4-D10		10-D10 (定着長30d)	10-D10 (定着長30d)	4-D10	10-D10 (定着長30d)	4-D10	4-D10	4-D10				
層	符号	FB1、FB3、FB4、FB8	FB2	FB5、FB6	FB7	FB9	FB10、FB12	FB11	FB13	FB14			
F	位置	全部	端部	中央	全部	端部	中央	端部	中央	端部	中央		
	1FL	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち		
	GL	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち	増し打ち		
	断面	※FB1断面			※FB5断面			※FB10断面					
	上端筋	3-D22	3-D19	3-D19	3-D16	5-D19	5-D19	4-D22	4-D22	3-D19	3-D22	3-D22	
下端筋	3-D22	3-D19	5-D19	3-D16	5-D19	8-D19	4-D22	7-D22	3-D19	3-D22	5-D22		
S T P	D13-□-@200		D10-□-@200		D10-□-@200		D13-□-@200		D10-□-@200		D13-□-@200		
腹筋	10-D10 (定着長30d)		2-D10		2-D10		10-D10 (定着長30d)		2-D10		2-D10		
層	符号	FB2A											
F	位置	端部	中央										
	1FL	増し打ち	増し打ち										
	GL	増し打ち	増し打ち										
	断面												
	上端筋	4-D19	4-D19										
下端筋	4-D19	6-D19											
S T P	D13-□-@200												
腹筋	2-D10												
特記事項				工事名称 令和5・6年度 志摩消防署機部分署等高台移転工事(建築工事)				図面名称 基礎梁リスト					
設計者 日本工営都市空間株式会社				日本工営都市空間株式会社 一級建築士事務所 愛知県知事登録(いー4)第3767号 管理建築士 岸見 淳平 一級建築士番号 第306011号 設計者 富田 哲人 一級建築士番号 第381431号				株式会社夏目構造設計事務所 一級建築士事務所 愛知県知事登録(いー1)第6861号 設計者 夏目 敬介 一級建築士番号 第340218号 構造設計一級建築士番号 第9443号					
				縮尺 1:30(A1) 1:60(A3)				三重県志摩市		令和5年 3月		図面番号 S-09	

ボーリング柱状図

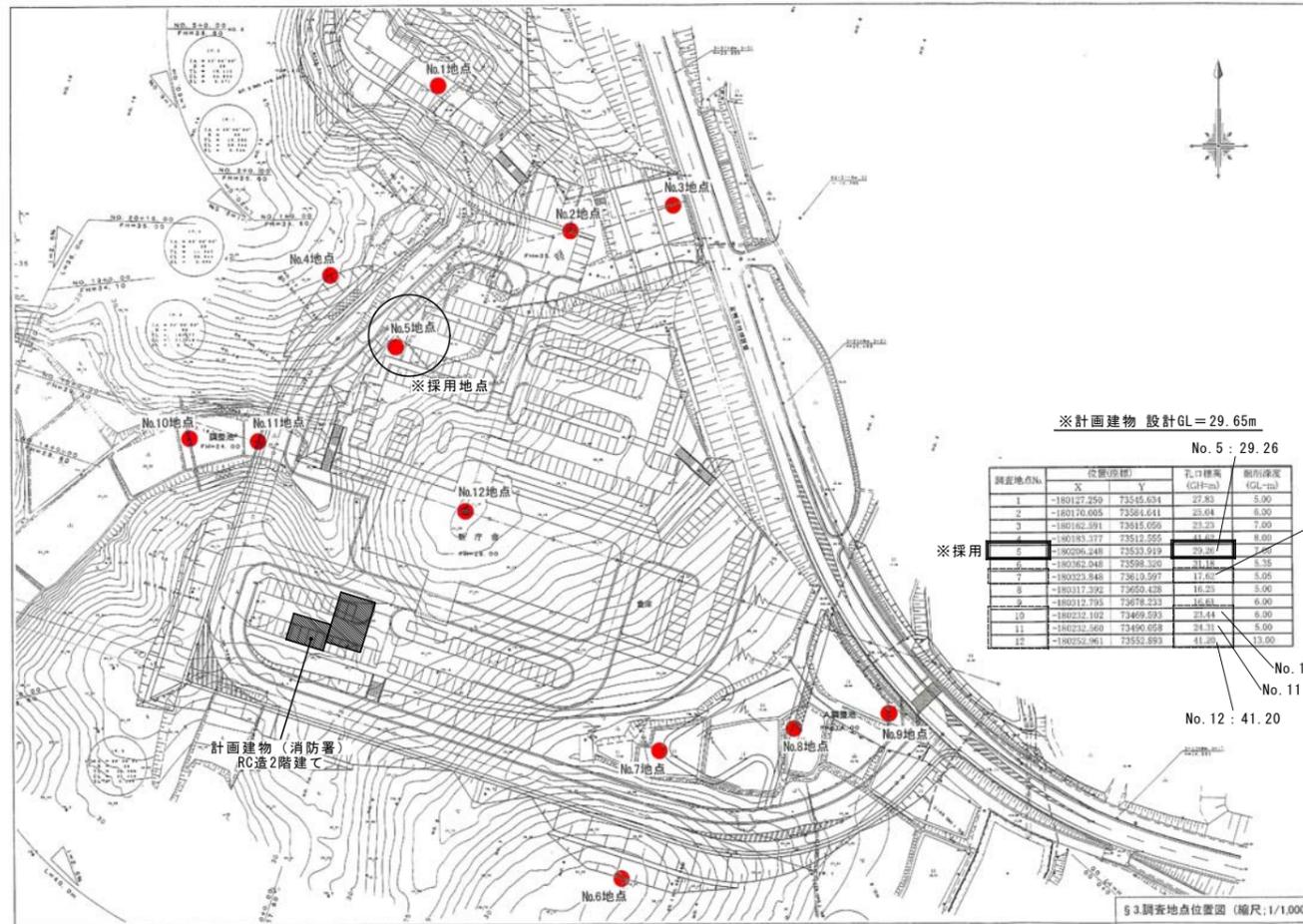
調査名 平成13年度 磯部町新庁舎建設地地質・水量調査業務委託

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

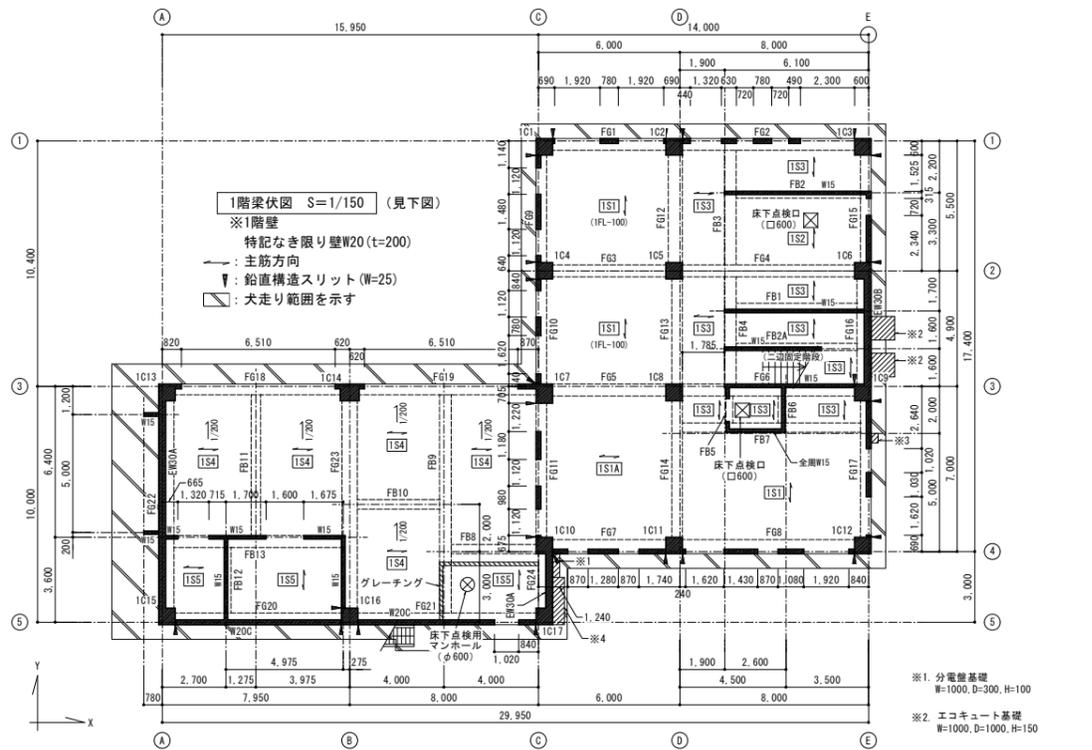
シートNo.

ボーリング名	No.5		調査位置	三重県志摩郡磯部町恵利原・迫間地内			北緯	34° 22' 21.8"		
発注機関	磯部町役場			調査期間	14年3月22日～14年9月30日		東経	136° 47' 58.3"		
調査業者名	東邦地水株式会社 電話(0593-31-7311)		管 理 者	玉腰幸士	現 場 代 理 人	出口裕二	コ ン 監 定 者	ア 出口裕二	ボーリング責任者	谷口克
孔口標高	29.26m	角 度	180° 上 90° 下 0°	方 向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地 盤 勾 配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	YBM-05	
総掘進長	7.00m			エンジン	YANMAR-NFAD8 YANMAR-GA120		ポンプ	KANO-V6 YANMAR-OP30		

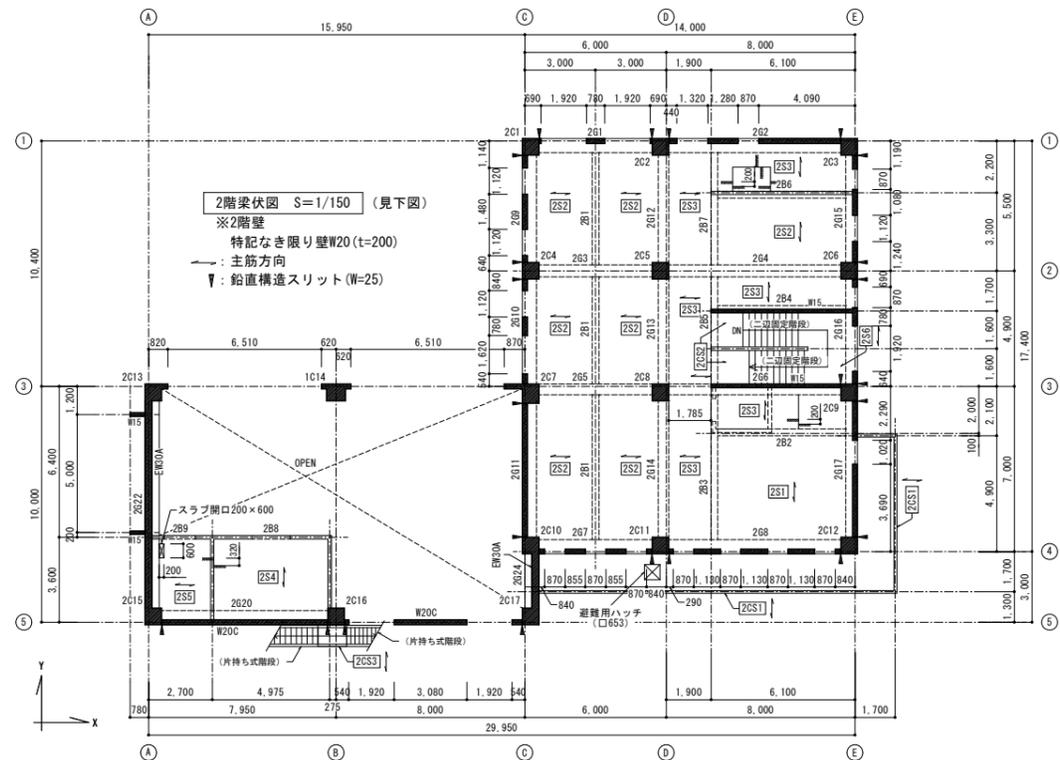


標 尺 (m)	深 度 (m)	柱 状 区 分	岩 色 硬 軟 割 れ 目 の 形 状 変 化 記 事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) グラフ		原位置試験 (m)	室内試験 (m)	掘進状況	排水量 (l/min)
								※代表としてF1~F3を用いる	※代表としてF1~F3を用いる				
1	0.25	表土	褐色				9/7 1.08等	0	0				
2	3.00	硬黄褐色粘土	黄 灰				9/6 2.55等	0	0				
3	3.70	暗黄灰	E W d e	1		DL		0	0				
4	5.50	黒灰・暗黄灰	D V s l c y	2		DH		0	0				
5	7.00	暗緑灰	B l c y			CL		0	0				

※隣地庁舎建設時の地盤調査資料を基に、計画建物の基礎設計を行う。
 計画建物から近い調査地点No.7およびNo.10~12は、孔口標高が低く (No.12のみ高く) 参考にできない。
 調査地点No.5は、孔口標高29.26mが設計GL (29.65m) に近く上記調査地点から次点の距離であり採用した。



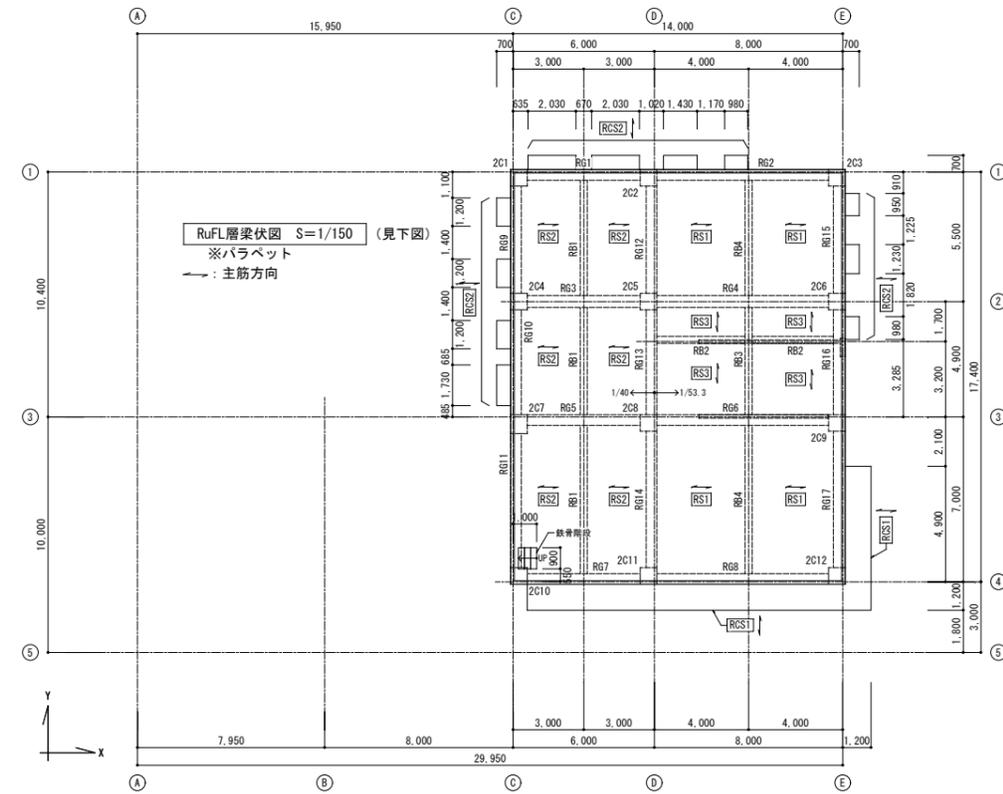
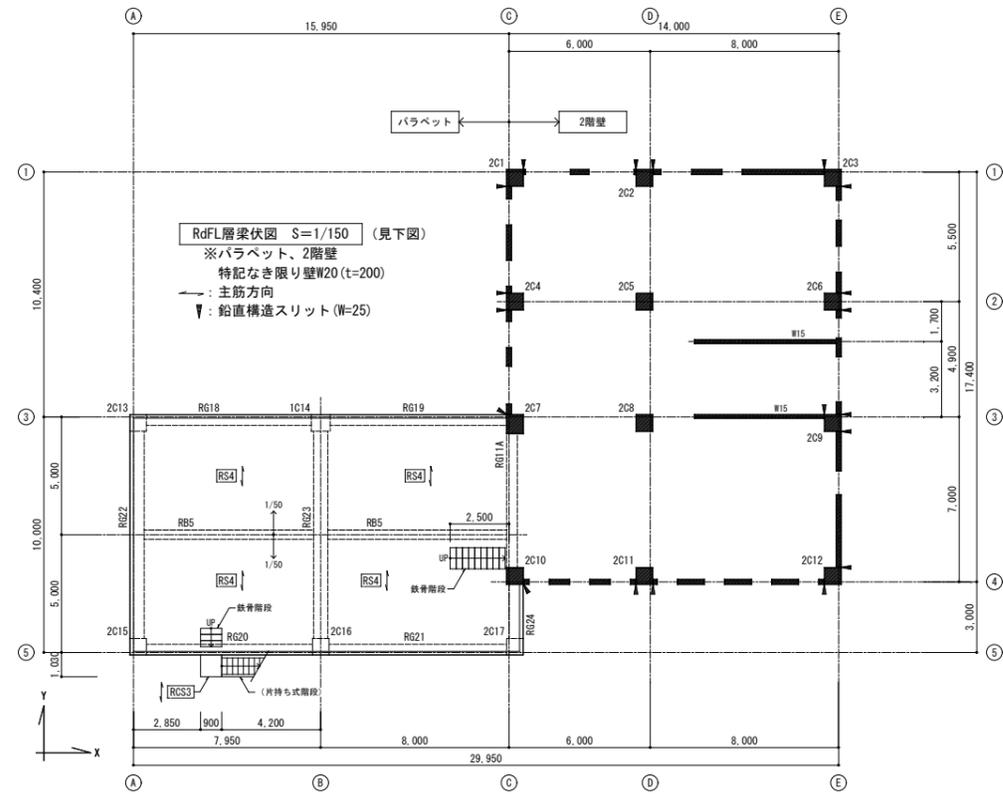
- ※1. 分電盤基礎
W=1000, D=300, H=100
- ※2. エコキュート基礎
W=1000, D=1000, H=150
- ※3. ブロウ基礎
W=400, D=300, H=150
- ※4. LPGボンベ置場
W=2000, D=500, H=150
- ※1~4共に D10@200-方向(シングル)



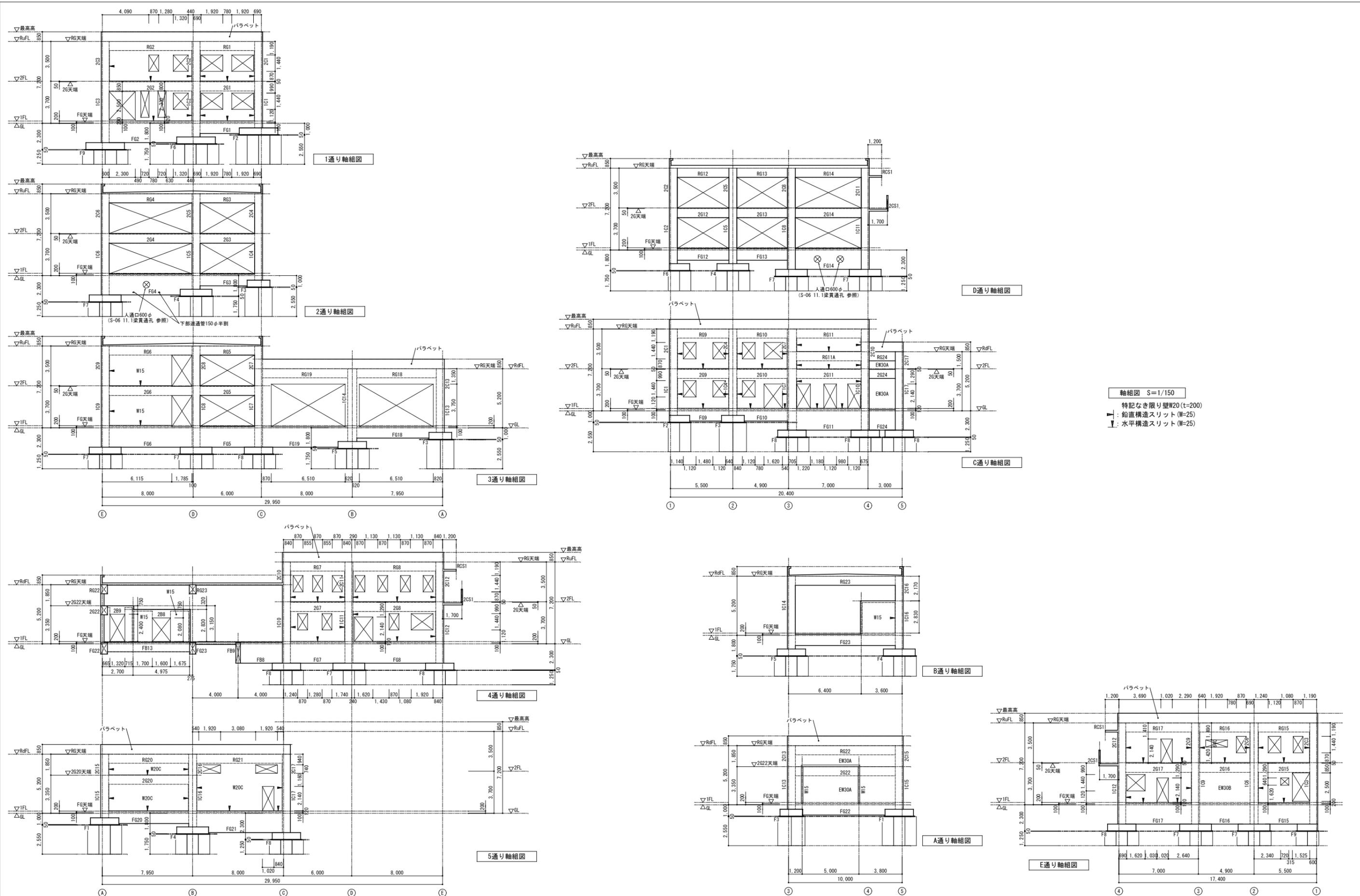
スリット開口補強リスト

径孔	地中梁	1F梁	2F梁	RF梁	地中梁
Φ100	21	21	7	5	0
Φ100 1.0D	0	0	1	0	0
Φ100 1/3D	0	0	4	6	0
Φ150	7	7	6	6	0
Φ150 1.0D	0	0	1	0	0
Φ150 1/3D	0	0	2	0	0
Φ200	10	10	21	19	0
Φ200 1.0D	0	0	7	3	0
Φ200 1/3D	0	0	3	7	0
Φ600	0	0	0	0	3

特記事項	工事名称	令和5.6年度志摩消防署磯部分署等高台移転工事(建築)	図面名称	1階梁伏図、2階梁伏図	三重県志摩市		
	設計者	日本工営都市空間株式会社 日本工営都市空間株式会社 一級建築士事務所 愛知県知事登録(いー4)第3767号 管理建築士 岸見 淳平 一級建築士番号 第306011号 設計者 富田 哲人 一級建築士番号 第381431号	株式会社夏目構造設計事務所 一級建築士事務所 愛知県知事登録(いー1)第6861号 設計者 夏目 敬介 一級建築士番号 第340218号 構造設計一級建築士番号 第9443号	縮尺	1:150 (A1) 1:300 (A3)	令和5年 3月	図面番号 S-11



特記事項	工事名称	令和5・6年度 志摩消防署機部分署等高台移転工事(建築工事)	図面名称	R階梁伏図	三重県志摩市		
	設計者	日本工営都市空間株式会社 <small>日本工営都市空間株式会社 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-4) 第3767号 管理建築士 岸見 淳平 一級建築士番号 第306011号 設計者 富田 哲人 一級建築士番号 第381431号</small>	株式会社夏目構造設計事務所 <small>株式会社夏目構造設計事務所 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-1) 第6861号 設計者 夏目 敬介 一級建築士番号 第340218号 構造設計一級建築士番号 第9443号</small>	縮尺	1:150 (A1) 1:300 (A3)	令和5年 3月	図面番号 S-12



特記事項	工事名称 令和5・6年度 志摩消防署機部分署等高台移転工事(建築工事)	図面名称 軸組図	三重県志摩市	図面番号 S-13
	設計者 日本工営都市空間株式会社	設計者 株式会社夏目構造設計事務所 一級建築士事務所 愛知県知事登録(イー4)第3767号 管理建築士 津平 一級建築士番号 第306011号 設計者 富田 哲人 一級建築士番号 第381431号	縮尺 1:150 (A1) 1:300 (A3)	令和5年 3月

柱 リスト									
F _c = 30 N/mm ² 、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)、SD390 (D29※)、高強度せん断補強筋 (U12.6) ※主筋D29が最上階柱頭にある場合には、四隅だけでなく全てフックを付ける									
2	符号	2C1~2C6、2C8	2C7	2C9、2C11、2C12	2C10	2C13	2C15	2C16	2C17
	位置	全部	全部	全部	全部	全部	全部	全部	全部
	断面								
	主筋	12-D22	16-D29、6-D25	16-D22	12-D22	12-D29、4-D25	10-D25、4-D22	14-D29、10-D25	14-D25
H O P	D13-□-@100	U12.6-冊-@100	D13-□-@100	U12.6-冊-@100	D13-□-@100	U12.6-□-@100	U12.6-冊-@100	D13-□-@100	
1	符号	1C1~1C6、1C8、1C10	1C7	1C9、1C11、1C12	1C13	1C14	1C15	1C16	1C17
	位置	全部	全部	全部	全部	全部	全部	全部	全部
	断面								
	主筋	12-D22	16-D29、6-D25	16-D22	12-D29、4-D25	26-D25	10-D25、4-D22	14-D29、10-D25	14-D25
H O P	D13-□-@100	U12.6-冊-@100	D13-□-@100	D13-□-@100	D13-冊-@100	U12.6-□-@100	U12.6-冊-@100	D13-□-@100	
大梁 リスト									
R	符号	RG1、RG5、RG7、RG17	RG2	RG3、RG9~RG16	RG4	RG6	RG8	梁の増し打ち補強要領	
	位置	全部	全部	全部	全部	全部	全部	共通	
	断面								
	上端筋	5-D22	6-D22	4-D22	6-D22	7-D22	7-D22	※1 : a < 70の場合、補強筋不要 ※2 : b ≤ 350の場合、2-D16 b > 350の場合、3-D16	
下端筋	4-D22	5-D22	4-D22	6-D22	7-D22	7-D22			
S T P	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200			
腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10			
R	符号	RG11A	RG18	RG19	RG20、RG21	RG22、RG24	RG23		
	位置	全部	全部	全部	全部	全部	端部	中央	
	断面								
	上端筋	6-D22	6-D29	6-D29	5-D25	5-D22	7-D25	7-D25	
下端筋	4-D22	4-D29	4-D29	4-D25	5-D22	7-D25	10-D25		
S T P	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-冊-@200			
腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10			
特記事項				工事名称		図面名称			
				令和5・6年度 志摩消防署機動分署等高台移転工事(建築工事)		各リスト1		三重県志摩市	
設計者				日本工営都市空間株式会社		日本工営都市空間株式会社 一級建築士事務所 愛知県知事登録(イ-4)第3767号 管理建築士 岸見 淳平 一級建築士番号 第306011号 設計者 富田 哲人 一級建築士番号 第381431号		株式会社夏目構造設計事務所 一級建築士事務所 愛知県知事登録(イ-1)第6861号 設計者 夏目 敬介 一級建築士番号 第340218号 構造設計一級建築士番号 第9443号	
				縮尺		1:30(A1) 1:60(A3)		令和5年 3月	
								図面番号 S-14	

大梁 リスト											
Fc = 30 N/mm ² 、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)、高強度せん断補強筋 (U10.7)											
層	符号	2G1、2G11	2G2、2G17	2G3	2G4	2G5	2G6	2G7	2G8	2G9、2G10、2G12~2G15	
位置	全部		全部	全部	全部	全部	全部	全部	全部	全部	
2	2FL										
	断面	※2G1断面		※2G2断面							※2G9断面
	上端筋	5-D22		6-D22	4-D25	6-D25	5-D25	7-D25	5-D25	6-D25	4-D22
	下端筋	4-D22		4-D22	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	5-D25	4-D22
	S T P	D13-□-@200		D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200
腹筋	2-D10		2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	
層	符号	2G16、2G22、2G24	2G20	/							
位置	全部		全部								
2	2FL										
	断面	※2G16断面									GL+3.350
	上端筋	5-D22									9-D25
	下端筋	5-D22		7-D25							
	S T P	D13-□-@200		U10.7-□-@150							
腹筋	2-D10		2-D10								

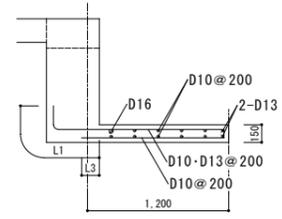
小梁 リスト									
Fc = 30 N/mm ² 、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)									
層	符号	RB1		RB2	RB3、RB4		RB5		梁の増し打ち補強要領
位置	端部	中央	全部	端部	中央	端部	中央	端部	中央
R	RuFL								<p>共通</p> <p>増し打ち/D16※2</p> <p>※1</p> <p>STPと同径、同材質、同間隔</p> <p>※1: a < 70の場合、補強筋不要</p> <p>※2: b ≤ 350の場合、2-D16</p> <p>b > 350の場合、3-D16</p>
	断面								
	上端筋	6-D19	4-D19	3-D16	5-D22	4-D22	8-D22	5-D22	
	下端筋	4-D19	5-D19	3-D16	4-D22	4-D22	5-D22	6-D22	
	S T P	D10-□-@200		D10-□-@200	D10-□-@200		D13-□-@200		
腹筋	2-D10		2-D10	2-D10		2-D10			

層	符号	2B1		2B2、2B4		2B3、2B5、2B7		2B6		2B8、2B9	
位置	端部	中央	端部	中央	全部	端部	中央	端部	中央	全部	
2	2FL								GL+3.350		
	断面			※2B2断面		※2B6断面			※2B8断面		
	上端筋	6-D19	4-D19	4-D19	4-D19	8-D22	3-D19	3-D19	1-D13		
	下端筋	4-D19	4-D19	4-D19	6-D19	8-D22	3-D19	5-D19	1-D13		
	S T P	D10-□-@200		D10-□-@200		D13-□-@200	D10-□-@200		D10-□-@200		
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10	2-D10		3-D10			

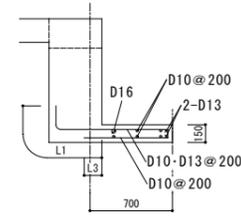
特記事項	工事名称	令和5・6年度 志摩消防署機部分署等台移転工事(建築工事)	図面名称	各リスト1	三重県志摩市	縮尺	1:30(A1) 1:60(A3)	令和5年 3月	図面番号	S-15
	設計者	日本工営都市空間株式会社	管理建築士	日本工営都市空間株式会社 一級建築士事務所 愛知県知事登録(イ-4)第3767号 岸見 淳平 一級建築士番号 第306011号 設計者 富田 哲人 一級建築士番号 第381431号	株式会社夏目構造設計事務所 一級建築士事務所 愛知県知事登録(イ-1)第6861号 設計者 夏目 敬介 一級建築士番号 第340218号 構造設計一級建築士番号 第9443号					

床 リスト Fc= 30 N/mm ² 、SD295A (D16以下)							
符号	厚さ	位置	短辺方向配筋		長辺方向配筋		備考
			端部 A	中央 B	端部 C	中央 B	
RS1~RS3	200	上端筋	D10-D13 @200	—	D10-D13 @200	—	四辺固定
		下端筋	D10-D13 @200	—	D10-D13 @200	—	
RS4	200	上端筋	D13 @200	—	D10-D13 @200	—	四辺固定
		下端筋	D13 @200	—	D10-D13 @200	—	
RCS1 RCS2	150	上端筋	D10-D13 @200	—	D10 @200	—	片持ち式
		下端筋	D10 @200	—	D10 @200	—	
RCS3	180	上端筋	D13 @200	—	D10 @200	—	片持ち式
		下端筋	D10 @200	—	D10 @200	—	
2S1	200	上端筋	D13 @200	—	D10-D13 @200	—	四辺固定
		下端筋	D13 @200	—	D10-D13 @200	—	
2S2	200	上端筋	D10-D13 @200	—	D10-D13 @200	—	四辺固定
		下端筋	D10-D13 @200	—	D10-D13 @200	—	
2S3	200	上端筋	D10-D13 @200	—	D10-D13 @200	—	二辺固定
		下端筋	D10-D13 @200	—	D10-D13 @200	—	
2S4	150	上端筋	D13 @150	—	D10-D13 @200	—	単純支持
		下端筋	D13 @150	—	D10-D13 @200	—	
2S5	150	上端筋	D10-D13 @200	—	D10-D13 @200	—	単純支持
		下端筋	D10-D13 @200	—	D10-D13 @200	—	
2S6	150	上端筋	D13 @200	—	D10-D13 @200	—	単純支持
		下端筋	D13 @200	—	D10-D13 @200	—	
2CS1	180	上端筋	D16 @200	—	D10 @200	—	片持ち式
		下端筋	D13 @200	—	D10 @200	—	
2CS2	200	上端筋	D13・D16 @200	—	D10 @200	—	片持ち式
		下端筋	D13 @200	—	D10 @200	—	
2CS3	180	上端筋	D13 @200	—	D10 @200	—	片持ち式
		下端筋	D10 @200	—	D10 @200	—	
1S1、1S5	200	上端筋	D13 @200	—	D13 @200	—	四辺固定
		下端筋	D13 @200	—	D13 @200	—	
1S2	200	上端筋	D10-D13 @200	—	D10-D13 @200	—	四辺固定
		下端筋	D10-D13 @200	—	D10-D13 @200	—	
1S3	200	上端筋	D10-D13 @200	—	D10-D13 @200	—	二辺固定
		下端筋	D10-D13 @200	—	D10-D13 @200	—	
1S1A、1S4	200	上端筋	D13・D16 @200	—	D13 @200	—	四辺固定
		下端筋	D13・D16 @200	—	D13 @200	—	
FS1、FS2 FS4	200	上端筋	D13 @200	—	D13 @200	—	四辺固定
		下端筋	D13 @200	—	D13 @200	—	
FS3	200	上端筋	D13 @200	—	D13 @200	—	二辺固定
		下端筋	D13 @200	—	D13 @200	—	

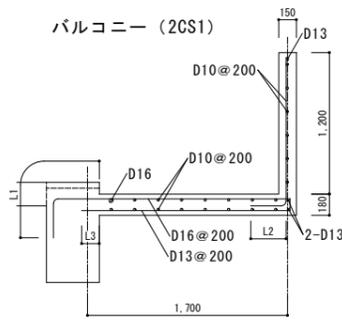
バルコニー底 (RCS1)



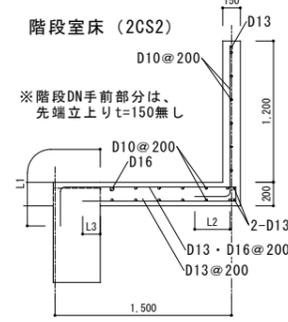
開口上底 (RCS2)



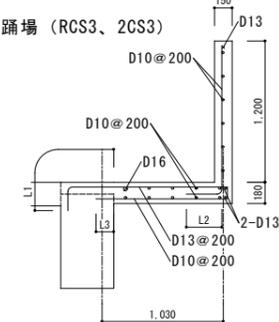
バルコニー (2CS1)



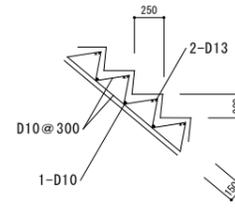
階段室床 (2CS2)



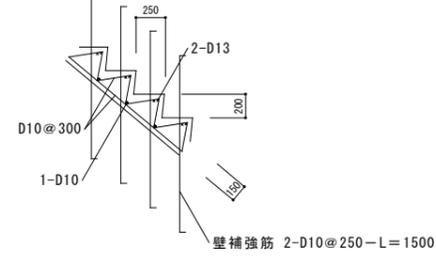
外部階段踊場 (RCS3、2CS3)



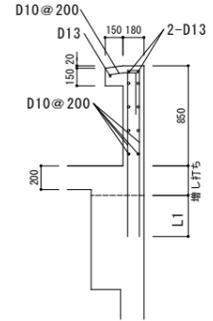
屋内階段 (二辺固定)



屋外階段 (片持ち式)

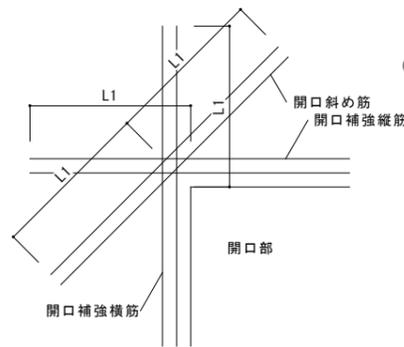


パラペット詳細図

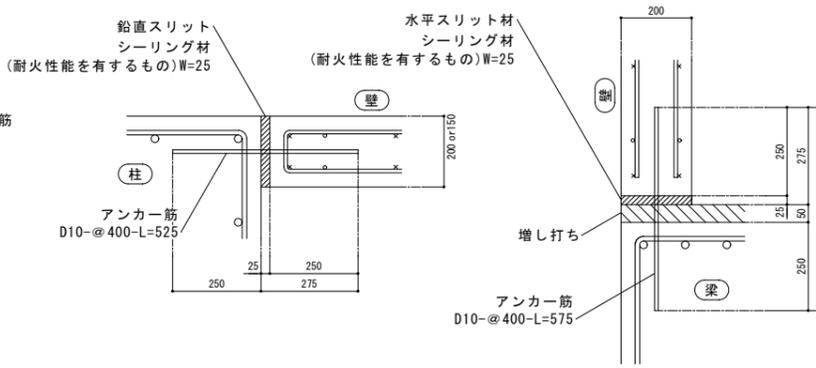


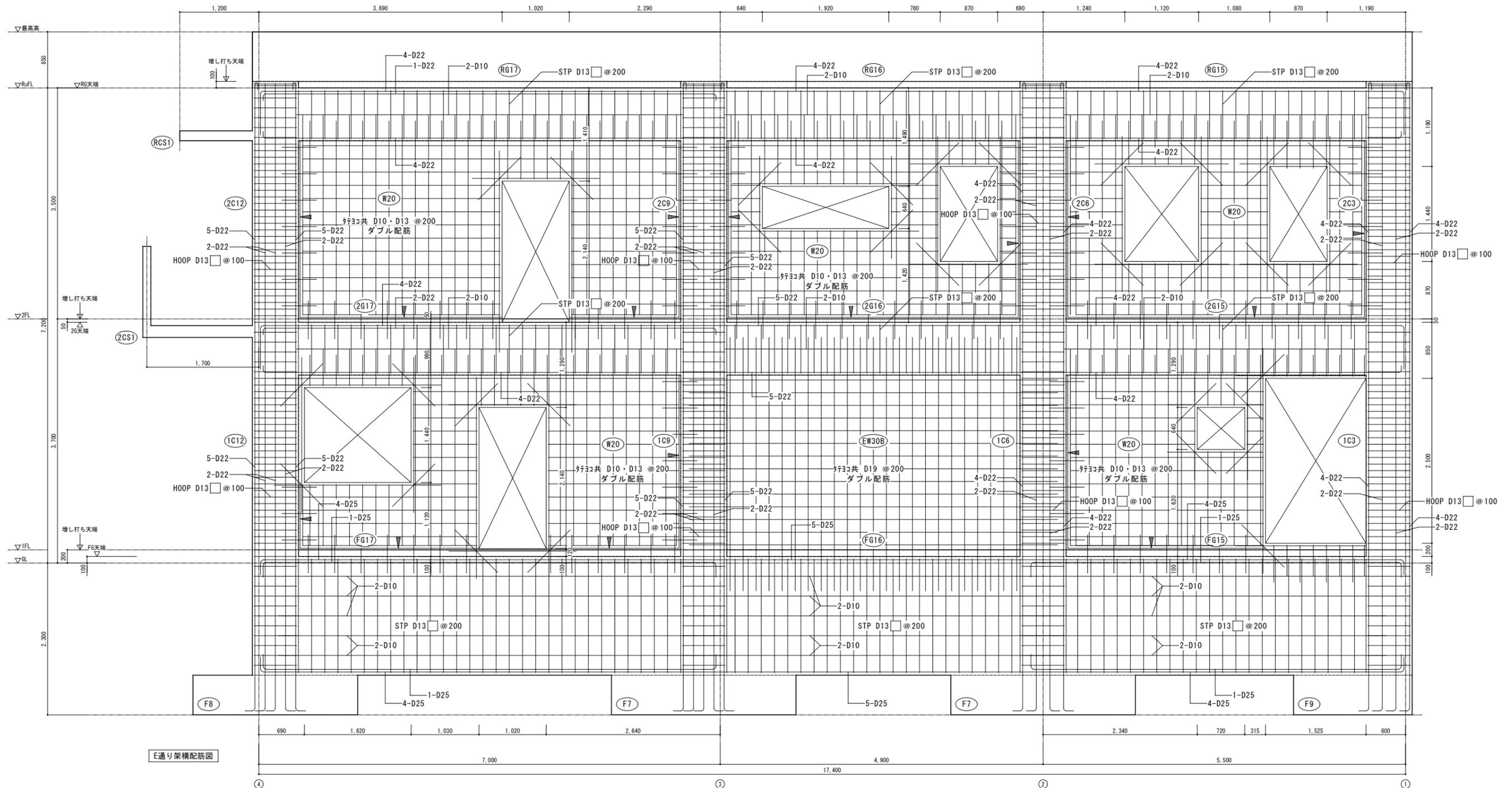
壁 リスト Fc= 30 N/mm ² 、SD295A (D16以下)					
符号	EW30A	EW30B	W20	W20C(階段受け壁)	W15
壁厚	300	300	200	200	150
断面					
タテ筋	D16@200(ダブル)	D19@200(ダブル)	D10・D13@200(ダブル)	D16@150(ダブル)	D10@200(シングル)
ヨコ筋	D16@200(ダブル)	D19@200(ダブル)	D10・D13@200(ダブル)	D13@200(ダブル)	D10@200(シングル)
開口部	タテ		2-D13	2-D13	1-D13
	ヨコ		2-D13	2-D13	1-D13
	斜め		2-D13	2-D13	1-D13

壁開口補強要領



構造スリット要領





E通り架構配筋図

特記事項	工事名称	令和5・6年度 志摩消防署機部分署等高台移転工事(建築工事)		図面名称	架構配筋図		三重県志摩市		
	設計者	日本工営都市空間株式会社	日本工営都市空間株式会社 一級建築士事務所 愛知県知事登録(イ-4)第3767号 管理建築士 岸見 淳平 一級建築士番号 第306011号 設計者 富田 哲人 一級建築士番号 第381431号	株式会社夏目構造設計事務所 一級建築士事務所 愛知県知事登録(イ-1)第6861号 設計者 夏目 敬介 一級建築士番号 第340218号 構造設計一級建築士番号 第9443号	縮尺	1:30(A1) 1:60(A3)	令和5年 3月	図面番号	S-17